

タイトル

名前

日付

はじめに

- ▶ 項目 1
- ▶ 項目 2
 - ▶ 1 階層下の項目 1
 - ▶ 1 階層下の項目 2
- ▶ このページの最後の項目

次のスライド

- ▶ Fictitious play **の説明 1**
- ▶ Fictitious play **の説明 2**

$x_0(t)$ は

$$x_0(t+1) = x_0(t) + \frac{1}{t+2}(a_1(t) - x_0(t))$$

と再帰的に書くことができる.

- ▶ Fictitious play **の説明 3**
- ▶ “pause” をつけると overlay ができる.
- ▶ ファイルの冒頭の `documentclass` のオプションで `handout` を指定すると, `overlay` にならずにっぺんに表示される.

Web にのせるときや, 印刷して配るときなどは `handout` を指定しておく.

次のスライド

- ▶ Fictitious play **の説明 1**
- ▶ Fictitious play **の説明 2**

$x_0(t)$ は

$$x_0(t+1) = x_0(t) + \frac{1}{t+2}(a_1(t) - x_0(t))$$

と再帰的に書くことができる.

- ▶ Fictitious play **の説明 3**
- ▶ “pause” をつけると overlay ができる.
- ▶ ファイルの冒頭の `documentclass` のオプションで `handout` を指定すると, `overlay` にならずにっぺんに表示される.

Web にのせるときや, 印刷して配るときなどは `handout` を指定しておく.

次のスライド

- ▶ Fictitious play **の説明 1**
- ▶ Fictitious play **の説明 2**

$x_0(t)$ は

$$x_0(t+1) = x_0(t) + \frac{1}{t+2}(a_1(t) - x_0(t))$$

と再帰的に書くことができる.

- ▶ Fictitious play **の説明 3**
- ▶ “pause” をつけると overlay ができる.
- ▶ ファイルの冒頭の `documentclass` のオプションで `handout` を指定すると, `overlay` にならずにっぺんに表示される.

Web にのせるときや, 印刷して配るときなどは `handout` を指定しておく.

次のスライド

- ▶ Fictitious play **の説明 1**
- ▶ Fictitious play **の説明 2**

$x_0(t)$ は

$$x_0(t+1) = x_0(t) + \frac{1}{t+2}(a_1(t) - x_0(t))$$

と再帰的に書くことができる.

- ▶ Fictitious play **の説明 3**
- ▶ “pause” をつけると overlay **ができる.**
- ▶ ファイルの冒頭の `documentclass` のオプションで `handout` を指定すると, overlay にならずいっぺんに表示される.

Web にのせるときや, 印刷して配るときなどは `handout` を指定しておく.

コードの説明とか

▶ コードの表示の例

```
import numpy
from matplotlib import pyplot
```

```
x = numpy.arange(0, 10, 0.1)
y = numpy.cos(x)
pyplot.plot(x,y)
pyplot.show()
```

- ▶ `\begin{frame}` から `\end{frame}` までをコピー&ペーストしてスライドを増やしていく.

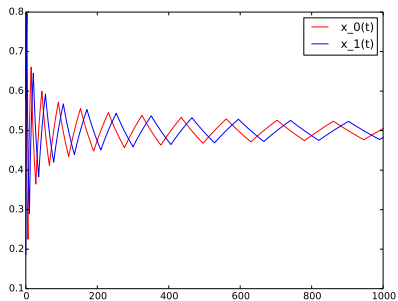


Figure: 図の表示

まとめ

- ▶ まとめ
- ▶ よくわかっていない点とか
- ▶ 今後の課題とか